

OIS

大阪府インテリア設計士協会

〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553

URL <http://jp-interior.or.jp/ois>
blog <http://oisblog.exblog.jp>
E-mail ois@jp-interior.or.jp

編集スタッフ

広報部長：仲田
広報部：田原・五代・高尾
加茂・西脇・橋口
事務局：奥田・岡崎

ロゴ募集!

詳細は3面をご覧ください。

No.89

HASHIRIGAKI

葉知利書



新年度を迎えて

会長 宮後 浩

東日本大震災から1年余り、未だに復興もオボつかず、なかなかめどさえ立たないといった状況をお聞きし、どうしようもない焦燥感に心を痛めております。

戦後の復興、阪神淡路大震災と味わってきた日本人の底力を今、ここでも示してほしいものです。

数年前から若者たちのモチベーションの低下について、私なりに疑問を持ち、その原因など、都度考えたりもしましたが、それなりに充足した生活そのものが夢を奪い取ってしまったのかもしれない、また、そうした私たちも反省すべきかもしれません。

よりよいもの、事、のために努力するにはそれなりのリスクも発生し、煩わしいことからの逃避もわからなくもありませんが、それを上回る高揚感や達成感を一人でも多くの人にわかって欲しいものです。

そして、今の自分とはもかく、大切な人、モノを守るために自分の力をつけるべきだと。それが、ひいては多くの人たちに幸福感を与え、自分自身にも返ってくるものだということに早く気がついて欲しいものです。

団体においても、人との交流を煩わしく思う方もおられるかもしれませんが、情報交換、つまりコミュニケーションによって、より楽しい集いにするかどうかはあなた次第です。みんなで楽しい時間と情報を共有しましょう。

OIS 総会報告

4月20日(金)、平成24年度総会が難波OCAT4階の難波市民学習センターで開催されました。参加者は約40名。23年度の事業・決算報告、24年度の事業計画・予算案が審議されました。23年度は、検定試験の受験者数の減少に伴い経済的・状況的に大変厳しい報告となりましたが、逆に今年度の目標は極めて明白なものとなりました。会員増強のためには現会員の丸となった協力が不可欠であり、時代の要請に伴った活動が求められることとなり、満場一致の拍手とともに閉幕を迎えました。



アサカ硝子産業㈱ 中島社長

続いて、賛助会員・アサカ硝子産業㈱の紹介により、AGCグラスプロダクツ㈱による「高透過ガラスを用いた新商品説明」がありました。パワーポイントや動画を用いたプレゼンテーションに参加者は興味津々、新しいものに対する貪



乾杯の挨拶(植田顧問)

欲な姿勢は誰も変わらないようです。

その後、場所を5階のスーパードライに移しての交流会。先程までの緊張が和らいだせいか、隣の人声が聞こえないくらい盛大に盛りあがりました。

「インテリア」を媒体とした学び・遊びから人脈づくりまで、OISにはまだまだ楽しい可能性が潜んでいます。今年度がより良い年度となりますように。

(記・橋口新一郎)



AGCグラスプロダクツによる説明会のようす



最後は一本締めで

24年度の方向性 事業部長の抱負

第1事業部



梅田 澄徳

受験推進と検定を主としていますが、昨年の受験者人数は目標を達成できませんでした。学校関係者への受験の協力依頼と会員の方々の紹介による会員の増加を目指します。

また、他の事業部と協力し、講習会、見学会などを通じ、魅力ある会にしたいと思っておりますので、皆さんご協力をお願いします。

第2事業部



今西 隆次

本年度は、昨年度の失敗を踏まえ費用のかからない講座・講習を行えるよう諸先輩方の協力を得、手描きパース講座・建築と家具講習・家具図面・造作図面・インテリアエレメント製作等の勉強会を行っていきたく思います。見学・実地研修は会員の希望・意見をお聞きして随時行いたく思いますのでご協力宜しくお願いいたします。

第3事業部



仲田 貴代史

「この、たいては面白くもない世の中を、面白く生きてみせよう」と、大河ドラマの言葉ではないのですが、そう思っている方も多いのではないのでしょうか？

個々のその思いを、OISを利用することでより現実化できるなら、会員も協会も幸せなことです。より多くの会員の質問、アイデア、意見、感想を吸い上げ、適切に事業に反映できるようにし、またそのような活動が会員間の交流を深め、より協会の活性化の一助になればと思っています。

今年度は、会員と協会との双方向通信がより強まるよう努めます。

第4事業部



南野江以子

親睦を兼ねての事遊展、サロン、かぶだちの会、青年部主催のDesigner's Bar等々の開催に際して、参加者が少ないことで頭を悩ませてきましたが、これからも、少なからずこの悩みは続くものと考えられます。

今まで以上に、会員の皆様のご期待に応えられるよう、時には意見交換をしたり、また興味を持たれていること、希望される内容を、直接伺ってみたいと思っています。

楽しくて中味のある会に出来るよう、皆さんの率直なご意見をお待ちしておりますので、ご協力のほど宜しくお願いします。

いっぱい ASO-BOZE

通天閣から飛田・百番へ



青年部ASO-BOZEの企画から、「街あるき・・・通天閣から飛田・鯛よし百番へ」のご報告です！

実施したのは年3月25日(日)、15時30分集合で、参加者は13名でした。皆さん、遅れずお集まりいただいたのにも関わらず予想外の展開で、通天閣の入場に70分待ちの行列で、びっくりしてしまいました。残念ながら時間の都合上、通天閣の見学は諦め予定変更、それぞれ1時間ほどの自由行動となりました。私は通天閣前の喫茶店でコーヒーをいただきましたが、このような機会がないと行けないようなお店でしたので、貴重なひとときでした♪ いよいよ時間となり百番へ向かうなか、民家もすぐそばにある商店街を通って行くのですが、洗濯物を電信柱に干している光景をみて、何とも複雑な心境になりました。そのような思いのなか歩いていきますと、ほどなく百番に到着です！

建物は大正時代に建てられたそうで、遊郭独特の数寄屋造り、昨年には「文化庁登録有形文化財」に登録されたそうです。内部は応接室になる陽明門や大正建築美術の枠を集めたお座敷、階段や壁画、中庭等、かなり豪華絢爛の造りで見ごたえがありました。

お料理はオードブルとカレー鍋をいただきましたが、予想以上に美味しかったです！！ まだ行かれていない方には、一度は行って見てもらいたい所です。また次回のASO-BOZEの企画で、皆さんが行ってみたいところや、やってみたいことなどがありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。末筆ながらこの度、瀬部部長に代わりまして私、広畑が部長を務めさせていただき運びとなりました。どうか今後とも変わらぬご指導、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

(記・広畑 直子)



SSS総会報告

我われOISが加盟するSSS(社団法人日本室内装備設計技術協会)の第46期通常総会が、KIS(京都府インテリア設計士協会)幹事のもと、5月12・13日に開催され、両日のスケジュールは12日(土)が会議と交流会、翌13日は見学・観光にあてられた。

今回の総会では、例年の前年度の事業ならびに決算報告承認、本年度の事業計画ならびに予算案決定に加え、猶予期限を1年としている法人改革問題、つまり“一般社団”か“公益社団”かの究極の選択が行われ、“一般社団”に移行することが満場一致で可決決定された。次いで、移行に伴う定款並びに諸規定の変更案が提示され、全て原案どおり可決承認された。

“公益社団”を希望する意見がなかった訳ではなかったが、“一般社団”への移行の方向性はSSSの幹部会で慎重審議された結果出されたものであり、既にその申請に向けて会計基準の更新や申請に必要な種々の書類が準備されている状況も報告された。

これによりSSSの名称が「一般社団法人日



あてやかな『舞い』

“一般社団”にシフト

本インテリア設計士協会」として来年4月1日にデビューすることになることは間違いのないものと思われる。

会議後の交流会は、KISの肝煎りによる舞妓さんら、きれいどころの日本舞踊で華やかさ満開となったところで乾杯を交わし、全国から参加の会員の紹介などが行われ、和やかなうちに、第1日目を終えた。

翌日の見学・観光では、まず、京都の北部に位置する静海市原町の川島織物を訪れ、主に緞帳を中心とした文化、歴史を目の当たりにし、その後市内中心部に戻り、22に及び大徳寺塔頭中最も尊重重視される名刹・大仙院で軽妙な口調の説明のもと、国宝の方丈や枯山水の庭園を見学、「泉仙」で鉄鉢料理といわれる精進料理をいただき、二条城を見学後、2時半過ぎ京都駅で解散した。

なお次期総会は、東北地方大震災で見合わせられていた「仙台」で来年5月開催予定である。

(記・事務局)



川島織物で



二条城での記念撮影

Designer's Bar OIS

facebookを学ぶ



園田理事

今、この記事を読むとウソのような話ですが、日本列島を記録的な寒波が襲い、大阪でもチラチラと雪が降る2月10日、いつものコラムデザインセンターで行われましたOIS青年部会主催の第11回デザイナーズバーに参加しました。

今回のミニトークは、理事の園田さんによる「facebookって何？」でした。

facebookはSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の一つで、私も活用しています。友だち検索機能を使うと、小中学校・高校・大学の友人、会社の同僚など幅広く交友関係を築くことができます。また、最近では大手企業が広告を載せるなど、積極的に使用しています。他のSNSとの違いは、実名や経歴を登録しますので、情報の質が高く「荒らし」が少ない反面、プライバシーの面で不安

があることは否めません。私は元来アナログ人間ですが、今の時代、デジタル人間になって適応していかなければならないと思います。

その後、バレンタインが近づいていることもあり、チョコレートファウンテンを行いました。いろいろな具材にチョコレートをからませ、大変おいしくいただきました。

そして、「ジャンボ・あみだくじレース」の登場です。このジャンボあみだくじは、以前よく行われていたそうで、久しぶりの復活だと聞きました。

参加者が好きな車を選び、賞品を目指して白熱したレースを展開しました。

今回もまた楽しく、有意義な時間を過ごせましたことに感謝しています。

(記・西脇利彦)



あみだくじレース

若い人の声を聞く「集いの会」を無駄にしない

「今の若い会員は、OISをどう思っているのだろうか。」
「イベントに若い会員が参加しないのはなぜだろうか。」

「若い会員は何に興味を持っているのだろうか。」
そのような声を私たちは、よく耳にします。

いくら自分たちで想像しても答えが返ってこないで、それなら、その「若い会員」に集まってもらって、直接意見を聞こう！という発想から、この青年部主催の「集いの会」を開くことにしました。

もちろん、青年部主催でいろいろな催しを行っていますが、いつもは先輩方の助力を得ており、青年部オンリーのイベントは初めてで、この日だけは違いました。

4月28日、土曜日の夕方6時半から、場所は、いつもDesigner's Barを開いているコラムデザインセンターに、写真の9人の方に参加していただきました。

食事に、若干のお酒も飲みながら雑談から始まり、お互いの心が打ち解けあった頃に、どう思っているのか、何を望むのか、などいろんなお話を聞かせていただきました。要約しますと、

* イベントに友人同伴で参加できることはありがたいが、会員と非会員の差がないので、それなら入会しなくてもいいのでは？

* 学生にとっては、会費が少し高いので維持する力がない。

* 青年部のイベントはよくあるのに、それ以外が覇気がない感じに見える。

* 室内ばかりで野外のイベントが欲しい。

* いろんな人からのお話を聞きたい。

* ここでしか経験できないことを学びたい。

中には、既に行っていることを知らない発言もありますが、本当

にリアルな話が沢山聞こえてきました。

もちろん、「面白いから来る！」という声も聞きました。

本当に嬉しいことです。そうしてくれる若い人がいるということは、本当に幸せなことだと思いました。

年会費の優遇措置や、イベントによっては学生割引など、金銭的に学生のことを考えることも大事なのかもしれないが、本当に見直す必要があるのは「OISの魅力」だと私は思います。

楽しいから来ました！ なにか面白そうやからきました！
〇〇さんがおられるから！ OISに入会してこんなことが経験できた！ 学べた！ 教えてもらえた～

単純なことかもしれません、そうしてくれるのは人間の魅力があるからだと思うのです。魅力が欠けているのかな～と正直思ってしまったこともあります。その魅力を見つめ直す時なのかもしれません。

それは私一人だけではなく、自分たち青年部だけの問題でもありません。各理事の方々が、どうしたらOISの魅力を出せるのか！?という点を考え直す必要があるとも思えた日でした。

時代が時代なのかもしれませんが、少なくとも時代に負けず、面白いOIS! 楽しいOIS! 何かがあるOIS! 学べるOIS! パワフルに、時代の波に負けない力が必要なんだと。

いろんなものが、1人でも多くの会員さんと共有・共感できれば幸いと思います。

この「集いの会」に来ていただいた方、参加できなかった人もいと思います。少しでも面白い協会にしますので、ぜひ一度、何かのイベントに参加してもらいOISをみてください。そして感じてください。面白いOISを。
(記・園田 寛明)



参加してくれた人たち

「HASHIRIGAKI=葉知利書」は昭和59年(84)10月、当時の会長・平井進氏の提案で発行を開始した。当初は「ハガキ1枚」で、文字どおり「走り書き」する程度のもだったため、モジって「葉知利書」と名付けられた。

現在のロゴは五代目で、初めてローマ字が使用されている。

◆募集要項

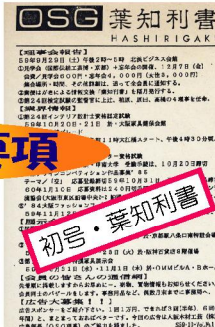
サイズ：タテ×ヨコ=40mm×135mm

標記：漢字でもローマ字でも可。ただし、漢字の場合はローマ字を、ローマ字の場合は漢字を小さくあしらうこと。

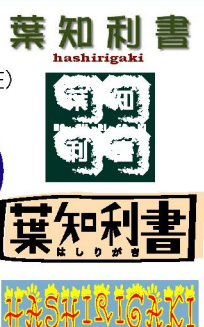
表現：手書きでもCGによるデータでも良い。

締切り：7月20日

著作権はOISに帰属する。採用された場合は記念品を贈呈します。



←初代ロゴ
右側・上から
2~5代目(現在)



歴代ロゴ

←ハガキ大

「ロゴ」募集要項

箱木千年家へ行きました。

高尾 千寿



左が“離れ”、右が“母屋”

箱木千年家(はこぎせんねんや)は日本最古の民家で、神戸市箕谷から西へ6~7kmの小さな集落にあります。箱木家は代々庄屋を勤めた由緒ある家柄で、現当主で51代目。茅葺・入母屋造りの屋根が深緑に映えて美しく、思いっきり低い軒が絶妙なバランスです。

国の重要文化財に指定されたのは昭和42年。ダム建設で水没することになったので、解体調査と屋敷地の遺構発掘をした後、70m東南に移築されました。それまでは実際に住んでおられたので気の毒なことです。増改築される以前の原形に戻され、時代ごとの建物に分離されています。

最も古い母屋は地面まで土壁で、盗賊から身を守るために板が仕込まれているそうです。小屋組は古式で断面も細く、背より幅を広



チョウナ仕上げの床

くとっていたり、元と末が逆木になっているところなど興味深い点がたくさんあります。カンナがまだ無い時代だったので、平滑面は全てチョウナでハツリ仕上げになっていて大変な労力が掛かっています。今でいう超高級建材ですね。光にあたった床板の表面がてらてらと波打つ様子は、時空を超えた人間の営みみたいなものが感じられてゾクッとしました。

移築当初、工法等から押し測って14世紀頃には建っていたとされたのですが、その頃の一般農家が恐ろしく粗末な造り(5坪程)だったことと比較しても、いかにこの家(30坪程)が有力農家だったかが分かります。同時に、その割に室数が少ないということは、時代の古さを表しているのだと聞くと、思いも一層深まり、初建の柱3本を思いっきり撫でてきました。



土間(にわ)

移築時の調査に当たった建築研究家の浅野清さんは「最初の柱の本数や細かな箇所にも、まだまだ不明な箇所がある」ので「再考の余地を残すよう古い仕事の痕跡をそのままに」したそうです。2005年には放射性炭素年代測定が行なわれ、築年代は室町時代初期にまで遡る可能性が出てきているとかいわれています。

現代の測定技術に劣らない見識の深さに敬意を感じると同時に“視る”って本当に奥深いとつくづく思いました。

どうせ見学に行くなら、調べてから行くほうが格段に面白いですね。今更ですけど…(笑)。

ボール紙とベニヤの茶室 “いちまい庵”

橋口 新一郎

また、わずが7日間のワークショップで生み出された二畳台目(*)は、7日間のギャラリー展示でその姿を消すこととなります。

“いちまい庵”は、日本の伝統文化である「はかなさ」を身をもって表現しているのです。

私が教鞭をとっているスペースデザインカレッジの造形作品展のイベントとして行ったモノづくりの実践的学習を目的としたプログラムでしたが、建築やインテリアに対する取り組み方、アイデアと手間次第では工業製品も大きく姿を変えらるということ、まだまだ皆さんの可能性が残されているんだということに参加した学生達は製作を通して体得してくれたのではないのでしょうか。



ボール紙、ベニヤ、いずれも身の回りにある“一枚”の工業製品から材料を切り出して、この茶室は構成されています。

利休の茶室にもみられるように一切の装飾を排除することで、“あかり”と“陰影”がもたらすシンプルで深みのある空間を提案しています。

*二畳台目：丸畳2枚と台目畳1枚の茶室。“丸畳”は1畳の広さをもつ畳“台目畳”は4分の3の大きさの畳をいう。したがって“二畳台目”は2.75畳の茶室をいう。

facebook

OISのサイトを **メンバー募集**
立ち上げました

このグループは、OIS・広報部が実験的に立ち上げたサイトで、今後のOISの発展を目指し、協会内での自己紹介・イベント告知・情報交換などなどwebを通して気軽に交流できるシステムを作ることを目指しています。

いまのところ、OIS会員のみが参加できる非公開グループとしております。

ご意見、ご感想、利用方法のアイデアなどありましたら、管理人まで御一報ください。

【利用方法】

フェイスブックに会員登録し、大阪府インテリア設計士協会を検索してください。よく分からない場合は、管理人の宮後浩・橋口新一郎にメッセージをいただければ対応いたします。